

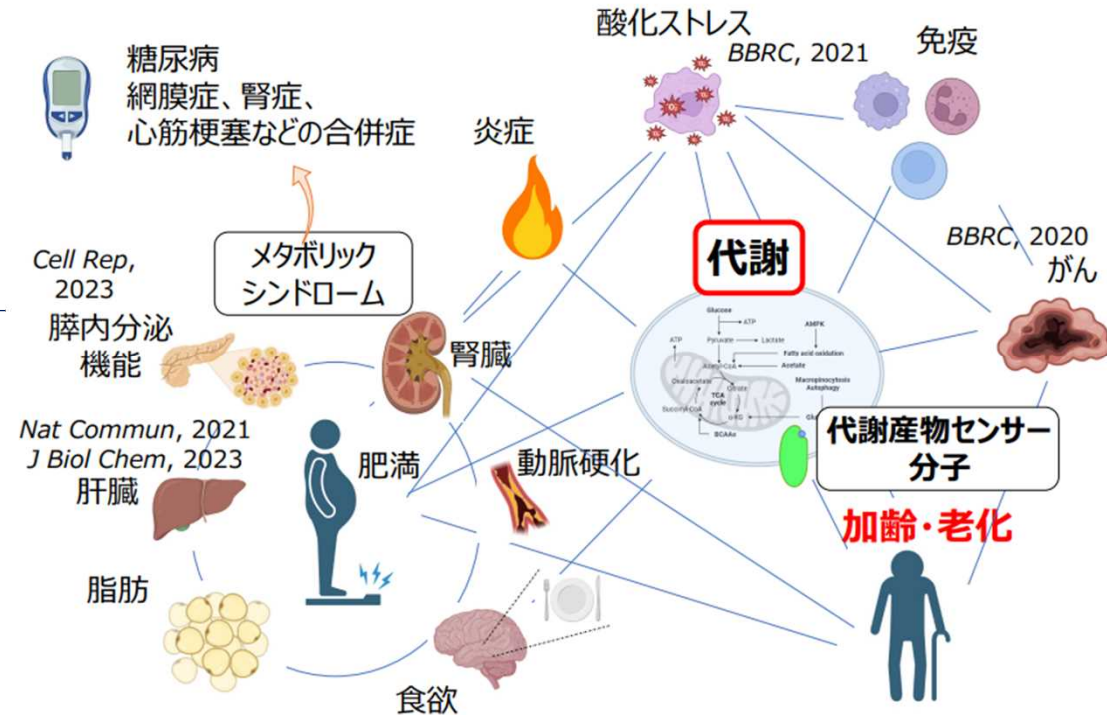
代謝産物センサー分子を標的にした老化現象の解明と医療応用 (関谷 元博/筑波大学)

背景

肥満はメタボリックシンドロームのみならず、がん、免疫異常など多彩な病態、生命現象に深く関わっている。我々は代謝産物に反応し活性が変化する代謝産物センサー分子を中心とした肥満病態の理解と医療応用の研究を進めてきた。

目的方法

肥満病態で不活性化し、活性化が様々な metabolic benefitsを生み出す代謝産物センサー分子であるが、加齢・老化現象にどのように関わっているか分子生物学的手法を駆使しつつ明らかにする。基礎的理解にとどまらず、治療法や診断法の開発のような社会実装性のある研究を積極的に展開する。



基礎的到達

代謝産物センサー分子は従来報告されてきた機能とは異なる形で加齢・老化現象に関わることが明らかになりつつある。肥満に見られるような代謝性の活性化・不活性化が重要な役割を果たしているが、加齢・老化と関連する新しい分子基盤が見えている。

医療への展開

基礎的理解に基づいて、治療法の開発のみならず、新しい形での医療応用性が見えており、臨床の現場に還元できるような研究を展開している。

